



第19期 安全衛生研修会を開催

-労働組合の安全衛生担当者として必要な基礎知識や考え方・手段・手法を学びました-



■第19期安全衛生研修会 開催概要

1. 日時:2023年11月20日(月)~21日(火)
2. 場所:大阪市「大阪キャッスルホテル」 〒540-0032 大阪市中央区天満橋京町1番1号
3. 参加者:33名(安全衛生対策部員含む)
4. 日本ゴム産業労働組合連合 主催者代表挨拶
中央執行委員長 佐藤 宜弘
5. 講演①:ゴム連合安全衛生活動及び災害傾向について
講師:ゴム連合 安全衛生対策部 部長 富田 繁
6. 講演②:製造業の休業災害傾向及び安全衛生に関する法令について
講師:大阪労働局労働基準部安全課 手柴 理章 様
7. グループディスカッション
議題:類似災害防止について
内容:リスクアセスメントを活用した類似災害防止対策の考え方
8. 講演③:KYT 教育
講師:中央労働災害防止協会 近畿安全衛生サービスセンター 大柴 聡様 ・ 柏 洋一様

主催者代表挨拶(要旨)



◆ゴム連合 中央執行委員長
佐藤 宜弘

皆さん、ご安全に。

本日は、ゴム連合第19期安全衛生研修会に沢山の方々にご参加いただき誠に有難うございます。

今回の安全衛生研修会はゴム連合としては初めての取り組みで、「労働組合の安全活動を推進して行く上で必要な基本的な知識を習得し、職場点検能力の向上を図り、類似災害を防止し、労働災害を撲滅する。」ことを目的に開催をさせていただきました。

その目的の背景には、ゴム連合に報告を頂いている休業災害は残念ながら17期、18期と26件と非常に高い水準で横ばいの状況であり、更に災害の中身を見ると約8割が過去に発生した災害の類似災害であること。そして、この状況は、過去の悲しい教訓が生かされていないことであり、防ぐことができた災害も数多くあると考えると産別と

しては大きな課題だと考えます。また、前期より本部2役にて加盟単組を訪問させて頂いていますが、訪問先の方々と意見交換してみると、多くの単組で役員の育成について課題感を持っているとのことでした。また、各単組とも本来であれば労組としても組合役員として必要な知識向上のための教育をしていくべきだと思っているが、多くの単組が組合非専従であり業務の合間をぬって活動している中で、なかなか育成のために費やす時間がないことに苦慮しているとのこと。そのような状況では、本来、最優先すべき安全に関する教育も会社任せであり、各社の教育内容にもバラツキがあることから、結果として加盟する単組間で安全衛生活動に差が生じていることも分かりました。その背景や単組の意見を踏まえた上で、産別として何ができるのか、そして歯止めが掛からない類似災害の撲滅に何をすれば繋げることができるのかを検討した結果、やはり基本に立ち返り、産別全体が同じレベルでバラツキなく安全衛生活動が出来ることに要点を置き、安全衛生に関する基礎知識の向上を目的とした研修会を開催することにしました。

私は自単組の災害を無くすためには、他社で発生した災害を他人事ではなく、どれだけ自分事として捉え、行動すること出来るかが重要だと思っておりますので、本日学んだことを自社の事柄と捉え活動を展開して頂くようお願い致します。

私の経験から KYT は数多く実践することが、危険を予知する能力の向上に繋がります。実は、私は組合専従になる前職は設備の保守保全をする保全マンでしたので、日々の業務において常に危険予知(自己KY)を実施していました。保全マンは、設備のプロだから災害とは無縁と思われがちですが、日々の業務が常に危険と隣り合わせでしたので、危険予知(自己KY)は作業をする前、作業中、そして行動を起こすたびに実施していましたし、それに加え自身の行動を再確認するために指差呼称も行うことで、自身の体を災害から守っていました。やはり、設備のプロであろうと質の高い危険予知ができないと大きなケガに繋がります。皆さんも、明日学ぶ KYT をできるだけ数多く作業で実践することで、危険を見つける目を養って頂き、今もなお職場に潜んでいる危険の芽を摘み取り、組合の使命である組合員が安全で安心して働ける職場環境が実現できる様に宜しくお願い致します。

最後にゴム連合は「安全は全てに最優先する」が基本姿勢です。そのことを常に徹底し、日々の組合活動を展開して頂くことをお願いしまして、本研修会の開会そしてゴム連合を代表しての挨拶とさせていただきます。皆さん、実りある研修会にしていきましょう。

講演:ゴム連合安全衛生活動及び災害傾向について



ゴム連合 安全衛生対策部
部長 富田 繁



【主な講演内容】

- ・全国の休業災害傾向
- ・ゴム連合の休業災害状況
- ・ゴム連合の安全衛生活動の取り組み
- ・類似災害防止について
- ・安全衛生部からのお願い

*主な意見・感想

- ・ゴム連合における災害傾向について理解が深まった。
- ・ゴム連合全体と弊社での被災者の作業経験年数には少し違いがあることが分かった。
- ・安全は全てにおいて優先されるということを再度認識できました。
- ・どの年齢層の休業災害が多いのか、数字、グラフ等で表示されていたので、見やすく理解ができました。
- ・ゴム連合では類似災害が多く、類似災害防止の為に、速報や対策報告書を活用したいと思った。
- ・類似災害が多くを占めているという、ゴム連合全体の課題が理解できた。

講演:製造業の休業災害傾向及び安全衛生に関する法令について



大阪労働局労働基準部
安全課 手柴 理章 様

【主な講演内容】

- ・災害統計
- ・災害事例
- ・安全に係るリスクアセスメント
- ・化学物質に係るリスクアセスメント
- ・新たな化学物質規制について
- ・大阪労働局第14次労働災害防止推進計画
- ・大阪発・新4S活動紹介
- ・その他(転倒災害防止・腰痛防止・熱中症予防対策等)

* 主な意見・感想

- ・高齢化に伴い転倒災害は避けられないので対策が必要と感じた。
- ・化学物質の法令改訂など、知らないことが多くて勉強になった。
- ・組合でだけで取り組むのは難しく会社と取り組む必要を感じた。
- ・慣れからくる気の緩みは普段から注意していても作業中は意識が低くなりがちなのがわかった。
- ・普段では聞けない内容であり今後の活動に活かせると思いました。
- ・化学物質の法規制等今まで知識として弱かった部分の補填が出来た。
- ・大阪データと全国データを比較して違いや割合が区別できたので理解が深まった。
- ・製造業全体としての災害傾向がどうなっているのか知れたことで、今後の災害防止に役立つと感じた。
- ・今後施行される取り決めも知れて良かった、随時情報を発信して欲しい。
- ・全体の災害状況が把握出来たのと新しく導入される化学物質規制について学習出来て良かった。
- ・化学物資規則については、その場で理解することが難しかった。
- ・広く知識を得るという意味では良かったと思う一方で、自組織の活動に活かしていくには難しい内容だったように感じた。

グループディスカッション「類似災害防止について」



【主な内容】

- ・類似災害防止の考え方について(説明:安全衛生対策部対策部長 富田)
- ・実際に起こった休業災害事例を使いリスクアセスメントを活用して対策を考える
(災害の型:挟まれ、巻き込まれ、転倒、無理な動作)

*主な意見・感想

- ・単組で類似災害防止対策を考える時のいい練習になりました。
- ・リスクアセスメントはやっているが、対策を風化させない為の次の一手を考える機会となりました。
- ・GD だった為、自分の会社以外の新しい発想が聞けたので良かった。
- ・災害対策をどう考えて行くべきなのか、知る事が出来て勉強になった。
- ・リスクアセスメントの大切さと考え方を学べたことと、グループ員の発想展開におどろきもありました。
- ・ゴム連合から配信される速報や対策報告書の内容を共有することで類似災害防止に繋がると感じた。
- ・実践的な演習・討議を行う事で、今後の活動のやり方の参考になった。
- ・出来てない領域の活動だったので具体的に手法を身につけることが出来た。

講演:KYT 教育



中央労働災害防止協会 近畿安全衛生サービスセンター
写真左:大柴 聡 / 写真右:柏 洋一 様

【主な講演内容】

- ・危険予知活動のめざすもの(DVD 視聴)
- ・指差し呼称(実技)
- ・導入・健康 KY(実技)
- ・どんな危険がひそんでいるか導入編
(DVD 視聴)
- ・危険のとらえ方と表現の仕方(実技)
- ・どんな危険がひそんでいるか徹底訓練
(DVD 視聴)
- ・KYT 基礎4ラウンド法(実技)



